

公募制推薦入学試験 〈総合評価型〉

2027年度は公募制推薦入学試験として実施

〈出典一覧〉

日 文	前田安正	『AIに書けない文章を書く』	筑摩書房
心 理	内閣府政府広報室	国民生活に関する世論調査（令和6年8月調査）を加工して作成 https://survey.gov-online.go.jp/living/202412/r06/r06-life/	
福 祉	内閣府孤独・孤立対策推進室	人々のつながりに関する基礎調査（令和6年）調査報告書（令和7年4月） https://www.cao.go.jp/kodoku_koritsu/torikumi/zenkokuchousa/r6.html	
初 教	毎日新聞	「「工学女子」の育成支援 追い風を確実な流れに」（2024年1月18日東京朝刊）	
安 全	消費者庁	食品表示法に基づく自主回収の届出状況（運用開始（令和3年6月1日）～令和7年3月末時点） https://www.caa.go.jp/policies/policy/food_labeling/food_labeling_recall	
ビジネス	日本経済新聞	社説「食品ロス削減へ商習慣見直せ」（2025年8月23日朝刊）	
ビジネス	消費者庁	2023（令和5）年度食品ロス量推計値の公表について https://www.caa.go.jp/notice/entry/042653/	

問題 次の文章を読んであとの問いに答えなさい。

自分自身の「時」を記す

文章には、自分という存在がにじみます。自分の存在は、過去から未来に流れる瞬間瞬間に積み重ねられた「時」によって形づくられます。人生観や思考はその「時」に大きく依っています。つまり、文章は自分自身の「時」を記すことでもあるのです。「時」を記すことは、自分自身の存在意義を明らかにする行為でもあります。それは、いつでも自分に立ち返ることができる「場」をつくることになりました。しんどい作業かもしれないけれど、自分自身への救いでもあります。

僕は新聞社に勤めていたので、「ジャーナリスト」とか「ジャーナリズム」とかいうことを、よく耳にしていました。この名称は「記者」ということばに比べて、少々大仰なイメージがあるので気恥ずかしい気もします。僕は校閲という部署にいたので、ジャーナリストや記者という名称は、自分からはややかけ離れたイメージを持っていました。

しかし、ジャーナル (Journal) には「日記」「日誌」という意味があります。つまり、日々の出来事を記録して、蓄積されたデータを基に時代の変化を読み取る人を、ジャーナリスト (Journalist) と呼ぶのです。そして、ジャーナリストは中立を重んじなければならぬという不文律があります。人種・宗教・人権などで偏向報道・憶測に基づく報道をしてはならない、という報道倫理に依っています。客観報道ということばも、これに近い文脈で語られることが多い。

記事や文章を書くときに、完全に中立でいられるようには思えません。A という意見に対して、B という反対意見 (カウンターオピニオン) を並べて載せることは、バランスを取る意味はあるにせよ、それで中立を担保したことにはならないと考えます。

むしろ、日々書かれたものの蓄積にこそ、客観や中立を判断する材料があるように思います。株価にたとえれば、株価が一時下がったとしても、移動平均線が右肩上がりなら、株価は上昇していると考えられます。記事を書いてデータを蓄積することは、長期的な判断をするために、移動平均線を引く作業でもあるのです。

書かれたものは、少なからず書いた人のバイアスがかかります。文章に完全な客観と中立を求めること自体、無理があることだと思っています。だから、記者は自分の意見を代弁してくれる専門家のことばを使って記事を構成することが多い。新聞をよく見ると記事の最後を、「〇〇は「……」と語った」「〇〇は言う「……」」という形で締めくくる手法が一つのパターンとなっています。僕もそうした手法で記事を書いたことがあります。記者本人の主張を、権威のことばを借りて示すことができ、文体としても収まりがよいからです。

しかし、面白いもので、同じ時間・同じ場所にいたとしても、そこにいた人の記憶はそれぞれ違います。付き合っていた彼女との別れ話の記憶でさえ、双方の言い分は食い違っています。別れ話をした場所、時間、どんなことばを言われ、どんなことばを告げたかなど、ここまで異なるものかと思うほど記憶の接点は、ずれているのです。

この場合、唯一客観的に言えるのは「付き合っていた二人が別れ」という状況だけです。自分の身に降り掛かった事でさえ、これを客観的に表現することなんてできません。

「だからなのか」「でもなのか、その時の気持ちを記しておくことが重要だと思うのです。自分の正当性を主張するためではなく、その時その時の、気持ちのゆらぎを記しておくのです。他人に読ませることを前提にする必要もありません。だから日記でいい。これが難しければ、メモでいい。」

時を経ていくと考え方も変わります。変わるということは、成長の証です。こんなことを言うと「あまりに楽観的で気楽だ」と言われるかもしれませんが、もちろん、深い怒りや悲しみは、時とともに和らぐということはなく、ただ意識の底に沈潜していくだけなのかもしれません。

それでも、時とともに怒りや悲しみのグレードは、変化しないということも含めて変化します。和らぐにせよ、増幅するにせよ、経年の変化を知るのはその状況と比較できます。もちろん、楽しいことだって同じです。その時楽しいと思っていたことも、時とともに変化します。それは、自分自身を「客観的」に見るという作業にほかなりません。

1

人間文化学部 日本語日本文学科 小論文：800字／60分

時の力を借りて、自らの「芯」を明らかにする。

ジャーナリストは「日々の出来事を記録して蓄積して、そこから時代の変化を読み取る人」だと前述しました。個人的な文章もその思いを記録し続けられ、時間の経過によって余分なものが削ぎ落とされ、「芯」が立ち現れます。それを客観的に見て、長期的な判断をすることが、「時」を記す意義です。

思春期の僕が、両親に対して「うるせーな」と言い放った、たったひと言の後ろ側には、たくさんの積み重なった思いがありました。ところが、その後ろ側に潜むことはをうまく表現できないのです。その思いを書きながら、何とか均衡を保っていました。振り返れば、他愛のないことのように思えます。それでも、そのときは必死に「デベイズマン (I'm not a man)」を探し求めていたのです。

僕たちが抱える悩みは、考えることによって課題になります。課題であれば、解決方法を考えることができます。何をどう考えるか。その内面の軌跡は、やがて「教養」となり文章の中に反映します。なぜなら「答えを求めて考え続けることこそが教養」だからです。ハウツー本に頼って得た知識は、技術ではあるが教養ではありません。考えずに答えを得ることはできないからです。「文章には、自分という存在がにじむ」と書いた部分は、「文章には、教養がにじむ」と言い換えてもいいのかもしれません。

文章を書くということは、「思考の軌跡」を記すことだと、僕は信じているのです。そして、僕が文章を書き、人に文章を書くことを勧めるのには、こんな思いがあるからです。

思考の軌跡＝ストーリーを書く

「思考の軌跡」こそが、ストーリーです。

米大リーグで活躍した野茂英雄選手や、現在、快進撃を続けている大谷翔平選手に多くの人が心引かれるのは、成績という目に見える WHAT もさることながら、彼らがそこを目指してきた WHY に惹かれるからです。「すごい！」という称賛のことばの裏側にある彼らのストーリーに共感するからです。

思考や感情は、人に紐づくストーリーです。AI が書くような「文章」には、「状況」は書かれていますが、「行動」や「変化」は描かれていません。情報は読み手を変化させる記号です。情報になっていない文字列を読んでも、読み手に影響を与えることがありません。つまり文書は単なる文字列でしかないのです。

確かに、文章を書かなくても生きていけます。

しかし、誰にでもその人にしか持ち得ないストーリーがあります。そのストーリーは、「自分にはか書けない」唯一のものです。

文章は、文字列ではなくストーリーを書くための手段です。ストーリーが、読み手に映像としての臨場感を与え、疑似体験を呼び起こします。ストーリーには「人」が介在します。

AI の時代だからこそ、人のストーリーが人を動かします。

だから、僕は文章の力を信じているのです。

(前田安正『AI に書けない文章を書く』筑摩書房、二〇二五年)

問 (一) 筆者の主張をまとめなさい。またそれを踏まえた上で、(二) あなた自身は「思考の軌跡」を記すこと、をどのような行為と考えるかを記しなさい。(一) と (二) をあわせて八〇〇字以内で述べなさい。

2

人間文化学部 日本語日本文学科 小論文：800字／60分

眼図国書『世界遺産 理想と現実のはざままで』（中村俊介著、岩波書店、2019 年）を読み、世界遺産の理念について世界遺産条約成立の歴史的背景に即して 300 字程度で説明しなさい。ついで、本書で取り上げられた具体的な世界遺産を例に、世界遺産制度が抱える課題を挙げ、自らの見解を述べなさい。全体の文字数は 800 字以内とする。なお、世界遺産名等の表記間違いは減点の対象外とする。

[illegible]